人々は口にする。
「まちから人が減っていく」
「こどもたちが少なくなった」
「後継者もいない」

たとえそうだとしても、
彼らに諦めるという選択肢はない。
これからも守り続ける。
先人から受け継いだ伝統、
それは、かけがえのないものだから——。

【特集】300年の伝統 登米能

継承する思い

特集 CONTENTS

初番目物　不安と希望
二番目物　受け継ぐ人々
三番目物　幽玄の世界
四番目物　次世代への継承
五番目物　そして、未来へ

【初番目物 不安と希望】

直面する後継者不足 求められる伝統の継承

市内では、地域に伝わる伝統芸能を後世に残そうと、多くの団体が活動しています。それらの団体では、会員数の減少や高齢化などの理由から後継者不足が課題に。昭和53年には市内で55団体あったとされる民俗芸能などの団体のうち、現在も活動を続けているのは約30団体。担い手不足を不安視する声が多くなってきています。

一方で、市が実施した、児童・生徒と、その保護者を対象にしたアンケート調査では、約8割の人が「文化活動は必要」と回答。伝統芸能の継承が求められていることが分かり、希望の光が見えてきました。そこで市では、平成30年に地域伝承文化振興方策を策定。本年度から伝統芸能伝承館「森舞台」で「とめ伝承芸能まつり」を開催するなど、継承活動の継続と新たな後継者の育成を目指して取り組んでいます。

市内各地域の伝統芸能が披露された「とめ伝承芸能まつり」で神楽を舞うこどもたち。世代間や地域間の新たな交流が生まれた

変わりゆく時代の流れとともに、伝統芸能の継承が難しくなってきている状況の中で、登米の地に300年近く絶えることなく受け継がれてきた「登米能」。その伝統を脈々と継承してきた人たちが抱いている思いとは——。

情報があふれ、かつてない速度で変化する現代社会。そんな時代にあっても、失われてはいけないものがあるはずです。今回の特集では、登米謡曲会の活動を通して、地域の伝統芸能を守っていくことの意義について考えます。